

〔科目名〕 マネジメント論Ⅱ	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目
〔担当者〕 小林 哲也 こばやし てつや	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回講義時に説明します 場所: 初回講義時に説明します	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>「マネジメント論Ⅰ」では、「マネジメント」についての基礎的な分野を学習したと思います。ここでは、「マネジメントとは何か」という基本的な概念から、マネジメントを構成している各機能についての内容を理解したと思いますが、「マネジメント論Ⅱ」では、この基本的な分野を基盤として、より専門的な分野を皆さんと考えていきます。具体的には、マネジメントの領域のひとつである「イノベーション・マネジメント」に焦点を当てて、その内容を考えていきます。企業の持続的な成長を実現するためにイノベーションは、不可欠な存在であると考えられています。本講義では、そのイノベーションをいかにして創出し、維持、成長させていくのか、そのためには、どのようなマネジメントが必要なのか、どのような手法が考えられるのかなどについて考えていきます。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 【他の科目との関連付け】 <p>マネジメントは、企業や組織の日常の業務をどのように進めていくのかや、企業の持続的な成長をいかにして獲得していくのかなどを考え、これを実現させるためにどのように企業を運営していくのかといったことを中心に考えていく領域です。そのため、経営学の基本的な分野、基礎的な領域を基盤として、その上に発展させているものになります。1年次で学ぶ経営学の基本的な分野はもちろんのこと、経営戦略や、マーケティングなど、経営学の幅広い分野の学習と関係する分野です。</p> 【学んだことが何に結びつくか】 <p>経営学科のディプロマ・ポリシーにある「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる人材」と「会計データを読み、資金の調達や引用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示する人材」に係る能力の構築に深く関係します。また、「組織と個人の関わり合いや、組織における複雑な人間関係の問題に焦点をあてながら、多人数の協働を確立し、維持・発展できる人材」に係る能力の導入を進め、ディプロマ・ポリシーに明示された能力の構築を目指します。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>本講義では、経営学科のディプロマ・ポリシーにある「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる」能力と「会計データを読み、資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示できる」能力の構築を目指します。また、授業を通じて、「組織と個人の関わり合いや、組織における複雑な人間関係の問題に焦点をあてながら、多人数の協働を確立し、維持・発展できる」能力の導入を進め、その基本的な能力の構築を目指します。</p> <p>また、イノベーションという、企業や組織の持続的な成長のために必要となる領域を学ぶことで、企業の成長や発展の背景を理解できるようにすることを目的にします。</p> <p>本講義を通じて、さまざまな情報を取捨選択しながら、自ら考え、意思決定し、自らの方向性を確立できる能力の構築を到達目標とします。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 担当教員にとって初年度の授業のため、コメント等はいりません。		
〔教科書〕 特に指定しません。		
〔指定図書〕 以下は、講義に際して参照文献として紹介します。 一橋大学イノベーション研究センター編『新装版イノベーション・マネジメント入門』, 2022年, 日本経済新聞社 近能善範・高井文子『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 2010年, 新世社。		
〔参考書〕 P.F.ドラッカー『マネジメント』, 2001年, ダイヤモンド社		

<p>〔前提科目〕 「マネジメント論Ⅰ」および経営学に関係する科目を履修していることが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 学期末試験の結果 (70%) 授業の理解度や疑問点等を把握するために毎回実施するリアクションペーパーの内容 (30%) ただし、特別の配慮が必要な方については、個別に対応します。学期末試験の詳細は授業時に解説します。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 上記の配分に従い、下記の点数の範囲で評価を行います。 A:100～80点, B:79～70点, C:69～60点, D:59～50点, F:49点以下</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本格的な経営学の内容を学ぶに際して学生の皆さんが理解しやすいように丁寧に、具体的事例を活用しながら授業を展開していきます。 授業開始前には、シラバスをもとに授業で取り扱う内容について参考文献などの事前に内容をみておくことが求められます。授業後は、授業内容を振り返り、内容を確認しておくこと、わからないことがあった場合は、担当教員に確認するなどして、疑問点を解決しておくことが求められます。授業における標準的な事前・事後学習時間は3時間です。</p>	
<p>〔実務経歴〕 シンクタンクでの研究員としての勤務実績(10年間)</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 授業の進め方となぜこの内容を学ぶのかについての概要説明 目標: この授業で何を学ぶのかを理解できる。 教科書・指定図書 なし</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): イノベーション・マネジメントの重要性 内 容: イノベーション・マネジメントとは何かについての説明。なぜイノベーション・マネジメントを理解しておくことが必要なのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第1章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 研究技術開発と競争優位 内 容: 研究技術開発が競争優位になぜ結びつくのかについての説明。なぜ、競争優位の確立にイノベーション・マネジメントが必要なのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第6章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 業界標準 内 容: 業界標準の確立と競争優位の関係について。なぜ、業界標準の獲得が競争優位の確立につながるのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第7章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 業界標準の世代交代戦略 内 容: 業界標準の世代交代が起きる要因と競争優位への影響について。業界標準はなぜ交代するのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第7章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 製品開発プロセス(1) 内 容: 製品開発プロセスの説明。製品開発のプロセスとイノベーションの関係について理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第9章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 製品開発プロセス(2) 内 容: 製品開発を実施する際の組織マネジメントについて。組織マネジメントが製品開発プロセスになぜ必要なのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第10章</p>

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):組織マネジメントとデザイン</p> <p>内 容:イノベーションにおける組織の役割とそのマネジメントについて。組織マネジメントとイノベーションの関係を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第10章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):プロジェクトチームとプロジェクトマネージャー</p> <p>内 容:製品開発を進めるプロジェクトチームとプロジェクトマネージャーの役割について。プロジェクトチームにおけるプロジェクトマネージャーの役割を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第10章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業間のマネジメント</p> <p>内 容:企業間関係のマネジメントについて。企業間関係におけるマネジメントの役割を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 一橋大学イノベーション研究センター 第10章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):外部委託</p> <p>内 容:分業構造における外部利用の役割について。外部組織の役割を理解することができる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第11章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):外部委託のメリットとデメリット</p> <p>内 容:外部組織を利用することのメリットとデメリットの比較について。外部委託のメリットとデメリットを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第11章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):コンカレントエンジニアリング</p> <p>内 容:コンカレントエンジニアリングとは何かについて。コンカレントエンジニアリングのメリットを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第10章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):ビジネスモデル</p> <p>内 容:ビジネスモデルとは何かについて。ビジネスモデルの構築とその内容を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第12章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめとフィードバック</p> <p>内 容:これまでの授業を振り返り、内容についての疑問点等についてフィードバック。これまでの授業における疑問点や質問等を解消し、内容をより深く理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
試験	<p>期末試験を実施の予定</p>